



Step2

IT・コンピュータ
英→日

目次

練習課題.....	5
練習課題 1 Defining a Schema.....	6
練習課題 2 Maintenance, Warranty and Consulting.....	9
練習課題 3 Limitations of the Current Network.....	12
練習課題 4 Document Lifecycle.....	15
添削課題.....	19
添削課題 I-201 XYZ installation	20
添削課題 I-202 1 TEST SERVICE DELIVERABLES	21
添削課題 I-203 Basic Processing	22
添削課題 I-204 XYZGuard 3.0 Provides Comprehensive View of Security Compliance Without Requiring Installation of Agents	23
添削課題 I-205 Field Types.....	25
添削課題 I-206 ABC Thermal Monitor	26
添削課題 I-207 REVOKING A CRF APPROVAL.....	27
添削課題 I-208 Editing Document Content.....	29
添削課題 I-209 XYZ’s RGB-split Technology Enables Next Generation of Foldable Tablets and Smartphones.....	30
添削課題 I-210 Access Modules.....	31
添削課題 I-211 Conclusions and Recommendations.....	33
添削課題 I-212 Modular drive test system for coverage and QoS measurements.....	34
添削課題 I-213 3.1 TEST CYCLE 1 – INFRASTRUCTURE TESTING	35
添削課題 I-214 Where efficiency counts:.....	36
添削課題 I-215 4.5 REPORTING AND WRAP-UP PHASE	37
添削課題 I-216 Intended Use.....	39
添削課題 I-217 6.5 Finding and Opening a DICOM File	40
添削課題 I-218 Using Job Variables	41
添削課題 I-219 mricmd Job-Level Command Examples	43
添削課題 I-220 Enterprise License Program Terms (Last Revised January 1, 2013) ..	44

Sidelight 1	マクロの使用でチェックを効率化	18
Sidelight 2	練習法	24
Sidelight 3	冗長化	32
Sidelight 4	フィードバックから得られるもの	42
翻訳コーディネーターJunのぼやき日記		28、38

練習課題

練習課題 1

あるデータベースソフトウェアに関するマニュアルの一節です。(翻訳目安時間：120 分、文体：敬体)

Defining a Schema

MRI DB requires that the job script describe the structure of the data to be processed, that is the columns in table rows or fields in file records. This description is called the schema. Schemas are created using the DEFINE SCHEMA statement.

The value following the keyword SCHEMA in a DEFINE OPERATOR statement identifies the schema that the operator will use to process job data. Schemas specified in operator definitions must have been previously defined in the job script. To determine how many schemas you must define, observe the following guidelines on how and why schemas are referenced in operator definitions (except standalone operators):

- The schema referenced in a producer operator definition describes the structure of the source data.
- The schema referenced in a consumer operator definition describes the structure of the data that will be loaded into the target. The consumer operator schema can be coded as SCHEMA * (a deferred schema), which means that it will accept the schema of the output data from the producer.
- You can use the same schema for multiple operators.
- You cannot use multiple schemas within a single operator, except in filter operators, which use two schemas (input and output).
- The column names in a schema definition in an MRI DB script do not have to match the actual column names of the target table, but their data types must match exactly.

注：operator「オペレータ」（このソフトウェアにおけるジョブを実行する機能で、いくつかの種類があります）。オペレータの種類は、カタカナ表記で構いません（例、standalone operator：スタンドアロン・オペレータ）。

【解説】

1) schema [スキーマ]

データベースの構造のこと。各フィールドのデータの種類やデータ長といったテーブル構造と、他のデータとの関連（リレーション）などを定義したものです。

2) job [ジョブ]

コンピュータに行わせる仕事の単位。

3) script [スクリプト]

一連の処理手順を記述したもの。インターネットの Web ページで使用される JavaScript などのスクリプト言語、アプリケーションソフトウェアに付属するマクロなどを使用した処理の記述もスクリプトと呼ばれることがあります。

4) table [表]

リレーショナルデータベースにおけるデータを格納する基本単位。テーブルは、column [列] と row [行] から構成されます。

社員番号	社員名	給与	部門番号
7369	山田	3000	10
7499	松田	4000	20
7566	佐藤	1800	30
7700	山田	2000	10

(http://www.atmarkit.co.jp/fdb/rensai/basics_rdb/01/bscrdb01-2.html)

5) fields in file records.

この表現はリレーショナルデータベース以外のデータベースを意識して書かれていると考えられます（ファイルに表形式など一定の枠組みを設けてデータを記録してあれば、それもデータベースとすることができます）。データベースに蓄積される1件1件のデータを record [レコード]、record 内の各項目を field [フィールド] と呼びます。file [ファイル] は record が複数集まったものです。

6) ~must have been previously defined [～はあらかじめ定義されている必要があります]

操作に必要な前提を表す表現です。

7) reference～ [～を参照する]

プログラムやアプリケーションの機能などが、処理に必要な情報を参照する場合などに使用する動詞です。

〔例〕 We do this before any of the parameters are referenced.

（いずれかのパラメータが参照される前にこの処理を実行する。）

8) target [ターゲット]

データのロード先やコピー先などの宛先。製品によっては、「ロード先」、「コピー先」など具体的な操作が分かるように訳す場合もあります。同様な単語に **destination** があります。

【参考訳例】

スキーマの定義

MRI DB では、処理するデータの構造、つまり表の行における列やファイルレコードにおけるフィールドをジョブスクリプトで記述する必要があります。この記述はスキーマと呼ばれます。スキーマは、**DEFINE SCHEMA** 文を使用して作成します。

DEFINE OPERATOR 文のキーワード **SCHEMA** に続く値は、オペレータがジョブデータを処理するために使用するスキーマを識別します。オペレータ定義で指定するスキーマは、あらかじめジョブスクリプトで定義されている必要があります。定義する必要があるスキーマの数を決定する場合、オペレータ定義（スタンドアローンオペレータを除く）でスキーマを参照する方法と理由については以下のような指針に従ってください。

- プロデューサ・オペレータ定義で参照されるスキーマは、ソース・データの構造を記述します。
- コンシューマー・オペレータ定義で参照されるスキーマは、ターゲットにロードするデータの構造を記述します。コンシューマー・オペレータのスキーマは **SCHEMA *** (遅延スキーマ) としてコーディングできます。つまり、プロデューサから出力データのスキーマを受け取ります。
- 複数のオペレータに同じスキーマを使用できます。
- 1 つのオペレータ内で複数のスキーマを使用することはできません。ただし、フィルタ・オペレータの場合は、2 つのスキーマ（入力と出力）を使用します。
- **Teradata PTMRI DB** スクリプトのスキーマ定義にある列名は、ターゲット表の実際の列名と一致している必要はありませんが、データ型は厳密に一致しなければなりません。